

令和7年度（2025年度）事業報告書

本財団で行う研修及び研究

本財団は、設立以来専ら精神分析の研修、研究事業を実施することによりわが国の精神保健の向上のため努力し、成果を上げています。本年度もこれらの方針を継続し、下記事業を計画、実施しました。

医師・臨床心理士等に対する精神分析および精神分析療法に関する研修事業として、通年セミナー14件（含新規セミナー1件）、単発セミナー8件（含新規1件）、助成事業1件を計画、実施しました。

I. 研修事業

1. 通年セミナー

(1) 小寺精神分析的セラピーケースセミナー（第6期）

目的：2020年度より開始した精神分析的セラピーのケースセミナーです。日本でよく行われている主に週一、二回の成人の精神分析的セラピーのケースを、ある程度実績を持つ中堅のセラピストの方々にご提示願ひ、それに対してシニアの臨床家がコメントをし、フロアと討論しました。ファシリテーターは藤山直樹が務めました。いま現実にはどのような精神分析的なケースが日本で展開しているのかに触れながら、参加者の臨床実践や訓練に何らかの示唆やヒントを生むことがねらいでした。ハイブリッド設定（現地開催とウェビナーの併用）にて開催し、遠隔地の方々にも多く参加いただきました。

対象：精神分析に関心があり、守秘義務を負っている方。

（申込みの際、守秘義務について誓約項目を設けて確認）

開催期間：2025年5月～2026年3月 第3土曜日原則、午後7時～9時、全10回

開催場所：小寺記念精神分析研究財団セミナーールおよびZoom Webinarによるハイブリッド開催

参加費：50,000円

参加人数：87名（定員100名）

運営方法：毎回、症例提示をしていただき、シニアの先生方に討論をお願いした。

司会は、藤山直樹が担当。

企画及び担当：藤山直樹

日時	コメンテーター	症例提示者
5月17日	妙木 浩之	浜内 彩乃
6月21日	奥寺 崇	堀川 聡司
7月19日	藤内 栄太	福島 渉
9月20日	鈴木 智美	長沼 佐代子
10月18日	加茂 聡子	堀江 桂吾
11月15日	小川 豊昭	木下 直紀
12月20日	吉村 聡	富田 悠生
1月17日	十川 幸司	内田 亮
2月21日	岡田 暁宜	三浦 聡太郎
3月21日	松木 邦裕	松本 拓真

(2) 体験グループセミナー (第31期)

目的：精神分析、力動的療法を基本とした、グループダイナミックスの学習、自己理解の深化をワークショップ形式のグループ体験を通して得る機会の提供を目的としました。

対象：精神分析セミナー、精神分析的臨床セミナーならびにそれに相当するセミナーの受講者修了者で、すでに精神療法の経験をもつ方を優先。

基本を2年コースと考えているので、原則として2年目の参加者を優先。

講師：鈴木純一・相田信男

開催期間：2025年5月～2026年3月、月1回 第4金曜日原則、午後7時～8時30分、全10回

場所：小寺記念精神分析研究財団セミナールーム

参加費：50,000円

参加人数：25名

企画者：相田信男

担当委員：相田信男

(3) グループ理論研究セミナー (第30期)

目的：精神分析、力動的医学を基礎におく集団療法臨床家の臨床家また指導者の養成を、理論的学習、とりわけ事例をめぐるグループ・スーパービジョンを通して達成することを目的としました。

対象：何らかの臨床グループあるいはトレーニング・グループなどに参加した経験のある、守秘義務をもつ専門家で、ことに事例提供が可能な方。

講師：鈴木純一・相田信男

開催期間：2025年5月～2026年3月、月1回 第2土曜日原則、午後2時～5時 全10回

開催場所：小寺記念精神分析研究財団セミナールームとZoomによるハイブリッド形式

参加費：60,000円

参加人数：39名(定員40名)

企画者：相田信男

担当委員：相田信男

(4) 組織で働くための精神分析 - そこまで生き延び貢献する術として - (第4期)

目的：多くの臨床家が何らかの組織(医療、教育、福祉、司法など)に所属し、その中で臨床家として業務を行いながら、組織の一員として組織との間でさまざまな困難を体験しておられると思います。精神分析は、そんな臨床家が組織の中で生き抜き、同時に組織に貢献するために有効なツールになると考えますし、すでに実践しておられる方もいらっしゃると思います。そうした実践を持ち寄り、議論することを通して、参加者が組織で働くための精神分析について体験的に学べることを目指しました。

参加にあたっては必ずしも精神分析の知識は必要としません。

対象：医師、公認心理師、臨床心理士、精神保健福祉士をはじめとする、「組織で働くための精神分析」に興味をもっておられる、守秘義務のある臨床家の方々。

講師：白波瀬丈一郎(精神科医：東京済生会中央病院)

三浦有紀(公認心理師・臨床心理士：東京済生会中央病院)

ゲストスピーカー：川上慎太郎（東京大学）、中西桃子（甲南大学）、岡田暁宜（名古屋大学）

日 程：2025年5月～2026年12月、月1回 第2日曜日 午後1時30分～4時30分 全7回

開催場所：小寺記念精神分析研究財団セミナールームおよびZoomによるハイブリッド開催

参加費：35,000円

参加人数：16名（定員20名）

企画者：白波瀬丈一郎

担当委員：白波瀬丈一郎

（5）組織で働くための精神分析 - そこで生き延び貢献する術として -

アドバンストコース（第3期）

- 目 的：この議論は、事例検討を通して行いました。検討は、メンタルヘルス支援プログラム（KEAP：キープ KEIO Employee Assistance Program）をはじめ、病棟運営やコンサルテーション・リエゾン精神医学などで培った、精神分析的および精神力動的な知見に基づきますが、加えて参加者の経験に基づく考えも積極的に取り入れていきました。
- 対 象：2020年度までの「臨床家のための、産業メンタルヘルスセミナー」、「臨床家のための産業メンタルヘルス実践セミナー」、2024年度までの「組織で働くための精神分析」修了者。
- 講 師：白波瀬丈一郎（精神科医：東京済生会中央病院）
三浦有紀（公認心理師・臨床心理士：東京済生会中央病院）
- 開催日時：2025年4月から2026年2月まで月1回 第2日曜日 午前10時～12時 全10回
- 開催場所：小寺記念精神分析研究財団セミナールームおよびZoomによるハイブリッド開催
- 参加費：30,000円
- 参加人数：12名（定員20名）
- 企画者：白波瀬丈一郎
- 担当委員：白波瀬丈一郎

（6）精神分析志塾（第10期）

- 目 的：精神分析志塾は、臨床力の向上とともに、臨床での学びを創造的に表現する力を高めることを目指しました。中堅臨床家から成るクロズド・ワークショップの形態で学びました。なお、開講10年目になりました今年度は3部構成によるワークショップ形式で行いました。
- 対 象：中堅臨床家（臨床経験7年以上【院生修士時代を除く】）
- 講 師：松木邦裕
- 開催期間：2025年4月～2026年3月、原則第1日曜日
午前10時半～午後3時50分（休憩時間を含む）全10回
- 開催場所：小寺記念精神分析研究財団セミナールーム
- 参加費：70,000円
- 参加人数：20名（定員18名）
- 企画者：松木邦裕
- 担当委員：奥寺 崇

(7) 力動的理解にもとづくロールシャッハ解釈 (第5期)

目 的：本セミナーでは、小此木・馬場による解釈技法を足がかりにしなが、ロールシャッハ事例を紐解いていきました。毎回、事例提供者のプレゼンテーションに対して、講師2名が見立てと理解を示しました。事例提供者を交えた3名の討論に、セミナー参加の皆様が加わることで、多角的に事例を理解することが期待されました。このセミナーでは、「担当講師から正解を学ぶ」という非臨床的なスタンスから脱却し、臨床素材から自由に連想し、生きた対象者理解を得られることを目指しました。

開催日時：2025年5月25日、6月22日、7月27日、8月24日、9月28日、11月23日
(すべて第4日曜日) 全6回 13時半～17時

開催場所：小寺記念精神分析研究財団セミナールームおよびZoomによるハイブリッド開催
(6/22のみTKP市ヶ谷にて開催)

講 師：吉村聡・北村麻紀子・人見健太郎

対 象：ロールシャッハ法の基本を取得している方(経験年数は問わない)

参加費：36,000円

参加人数：35名(定員50名)

企画者：吉村 聡

担当委員：吉村 聡

(8) 「夫婦・家族面接に活かす精神療法」(第3期)

目 的：日頃の臨床を行っていく上で、家族関係理解や夫婦関係理解は欠かせません。その関係性と力動をどのようにとらえたらよいのか、ましてや実際に家族や夫婦が来談したときにどのように面接を展開したらよいのかを学ぶ機会は意外に少ないと考えられます。そこで、このセミナーでは家族療法理論や力動的理論を背景に持つ講師陣がこうした皆様の疑問にわかりやすく答えたり、ロールプレイでの実際の面接の持ち方を体験学習しました。

対 象：家族面接や夫婦面接を運用するための理論や枠組みについて学びたい方。
その具体的な方法を身につけ実践に活かしたい臨床家。大学院生も受講可。

講 師：中村伸一・岡野憲一郎・渡辺俊之・岩井昌也・北島歩美

開催期間：2025年5月～2026年2月、月1回 第4土曜日原則、午後2時～5時 全8回

開催場所：小寺記念精神分析研究財団セミナールームおよびZoomによるハイブリッド開催
(ただし、ロールプレイの11月、1月は、会場での開催)

参加費：36,000円

参加人数：8名(定員20名)

企画者：中村伸一

担当委員：中村伸一

(9) 小寺臨床講読セミナー —現代クライン派の系統的理解(VI期)— : 1. 基本概念と展開

目 的：メラニー・クラインは、現代の精神分析の重要な源泉の一つであり、優れた直観と観察に基づいて多くの独創的な見解を展開しました。しかし原著は、十分に背景を知らずに読んでも理解し難いことも事実です。今期はPhyllis Grosskurth(1986)による古典的なクライン評伝やPenelope Garvey(2023)による最新の入門書を参照しつつ、クラインの論考を、著作集未収録の公開講義を含めて読み進めました。

対 象：テキストを読んで毎回参加し、年に何回かレジュメ作成と発表ができる方。

講 師：福本 修・平井正三（特別講師）

開催期間：2025年4月以降の第2金曜、原則として午後7時～10時、全12回

開催場所：オンライン開催

参加費：60,000円

参加人数：18名（定員20名程度）

企画者：福本 修

担当委員：福本 修

（10）小寺臨床講読ワークショップ

—フロイトの系統的理解（Ⅶ期）—2. 精神分析の完成と移行期（1910-1920）

目 的：本ワークショップでは、参加時間の中でフロイト読解を体験し、精神分析の〈現場〉へと赴くことを目指しました。2025年度は、完成期に入ったフロイトによるメランコリーへの新たな取り組みそして技法論文・メタ心理学論文などを取り上げると同時に、その現代における展開を幅広く経験できる現代論文を選出しました。今期は特に、フロイト学派の展開に注目しました。3年間で全体をカバーする予定です。

対 象：テキストを読んで毎回参加できる方。臨床経験の多寡は問いません。

講 師：福本 修（余裕があれば時に特別講師）

開催期間：2025年4月以降の第三金曜、午後7時～10時、全12回

開催場所：オンライン開催

参加費：60,000円

参加人数：22名（定員20名程度）

企画者：福本 修

担当委員：福本 修

（11）英国独立学派の講読セミナー（第7期）

目 的：4年目のボラスを経て5年目からT. オグデンを中心に多層的な理解を深めています。7年目は引き続きオグデンをもとに、主体の発生と確立の理解を目して同時代の主要文献を読んでいきました。各回文献を配布し、予め割り振った担当者がテキストのレジュメを作成しそのプレゼンテーションと、他の参加者のそれぞれの文献に関する質問を中心にセミナーリーダーが全体の理解をファシリテートしました。

開催日時：2025年5月以降 第4日曜日原則 午前10時半～午後1時 全10回

開催場所：クリニックおくでら（小田急小田原線 経堂駅 徒歩5分）とZoomのハイブリッド

講 師：奥寺 崇

対 象：フロイト理論の系統講義（基礎講座、精神分析セミナー）・講読セミナーの受講経験がある専門家

参加費：40,000円

参加人数：13名（定員15名程度（会場参加は最大10名））

企画者：奥寺 崇

担当委員：奥寺 崇

(12) フランスの精神分析 (『精神分析・精神病理の臨床研究』 第四期)

目的：フランスの精神分析と言えば、ラカンの名前と結びつけられて語られることが多いが、それはあくまで、その潮流の一つでしかない。その中でもアンドレ・グリーンは、ウィニコット、ビオン、ラカンを批判的に継承し、現代の精神分析理論の更新を図ったが、その困難な試みは、彼の没後は展開も継承もされないまま、忘れ去られつつある。今年度は、アンドレ・グリーンをはじめとする、ビオンに影響を受けたフランス語圏の分析家たちの仕事に焦点を当て、フランス精神分析の全体像を把握することを試みた。

対象：臨床に携わり、毎回指定された文献を精読したうえ、参加できる人。

講師：十川幸司

開催日時：2025年5月～2026年3月 月1回、第2日曜日 午後13時30分～16時 全9回

開催場所：小寺記念精神分析研究財団 第二セミナールーム

参加費：35,000円

参加人数：10名（定員10名）

企画者：十川幸司

担当委員：十川幸司

(13) 精神分析の古典を読む (第2期)

目的：このセミナーは、精神分析の古典、そしてそれを書いた著者たちに触れ、交わることを目標とするセミナーです。

単に知識としてだけ精神分析の古典を、例えばレジュメを作って発表し合っただけでも、それは著者と対話したことになりません。知識を得るための読書も必要ですが、意味がありませんが、精神分析の実践に近づこうとしている人が精神分析の文献を読むとき、それだけでは十分ではありません。グループでさまざまな理解と体験を共有しながら、精神分析の古典に近づいて行こうとするセミナーです。精神分析の実践経験や訓練の水準がどのような方にも意味があるセミナーを目指しました。

対象：精神分析の古典を読むことに興味のある臨床家。

セミナーリーダー：藤山直樹

開催日時：2025年4月～2026年3月 月1回 第1日曜日、午後7時半～9時 全11回

開催場所：藤山の個人オフィス

参加費：33,000円

参加人数：8名（定員8名）

企画者：藤山直樹

担当委員：藤山直樹

(14) 乳幼児メンタルヘルス (新規)

目的：本セミナーは「乳幼児観察セミナー」を発展させ、乳幼児、早期親子関係の臨床に焦点を拡大したものである。本セミナーでは、乳幼児観察も含め乳幼児期の臨床実践、乳児院や児童養護施設での臨床、子育て支援などの実践などを含めて、幅広くこの領域での臨床と科学的知見に関して論じた。

セミナーは二部構成で、前半は乳幼児メンタルヘルスに関する講義、後半は精神分析心理療法、乳幼児観察、実際の現場で関わる専門家の報告など。

対 象：乳幼児さらに思春期、成人の心理臨床に関わっている方、あるいは乳児院、子供に関わる実践に関わっている方であれば、守秘義務を遵守の上、職種は問わない。

開催日時：①7月27日(日)、②11月30日(日)、③2026年3月15日(日) 午後1時～5時

開催場所：小寺記念精神分析研究財団セミナールームと Zoom によるハイブリッド
(7/27のみ TKP市ヶ谷カンファレンスセンター)

司 会：木部則雄 (こども・思春期メンタルクリニック/白百合女子大学)

松本拓真 (国立大学法人東海国立大学機構 岐阜大学教育学部)

講 師：①木部則雄 「精神分析における乳幼児メンタルヘルス」

②鴫田夏子 (慶應義塾大学病院)

「乳幼児一親心理療法：親子同席面面接から見る親子の交流」

③黒崎充勇 (広島市立舟入市民病院)

「社会的養護で乳幼児の心を抱えること～乳幼児メンタルヘルスの観点から」

症例発表：①Dalrymple 規子 (桜花学園大学) ②橋村和 (サポチル セラピスト養成コース)

③戸田堯弘 (聖オディリアホーム乳児)

討 論者：木部則雄・松本拓真

参加費：15,000円

参加人数：40名 (定員：会場20名、オンライン30名)

企画者：木部則雄

担当委員：木部則雄

2. 単発セミナー

(1) 精神分析一医学生・研修医セミナー (第18回)

目 的：臨床医をめざす医学生・研修医に、人間の心を深く見つめる精神分析の世界について、充実した内容をコンパクトに解説しました。

開催日時：2025年10月19日(日) 午前9時半～午後6時

開催場所：小寺記念精神分析研究財団セミナールームおよびオンラインのハイブリッド開催

講 師：藤山直樹・松木邦裕・高野晶・池田暁史・宮田善文・衛藤暢明

対 象：医学生、および研修医・専攻医、(初期/後期研修医、医学部5・6年生を優先)

参加費：医学生6,000円、研修医8,000円

参加人数：20名 (定員30名)

企画者：池田暁史

担当委員：池田暁史

(2) 『タヴィストックセミナー』 (第17回)

30年間、日本で乳幼児観察を主宰して学んだこと

目 的：本年度は、タヴィストック・クリニックでの御経験後、長年日本で乳幼児観察セミナーを主宰されてきた鈴木龍先生を講師にお招きしました。

開催日時：2025年12月21日(土) 午後1時～5時

開催場所：小寺記念精神分析研究財団セミナールームおよびオンラインのハイブリッド開催

対 象：精神分析に興味があり、臨床実践を行っている方。(臨床経験の多寡は問いません。)

講 師：鈴木 龍 ((旧)鈴木龍クリニック)

司 会：福本 修（代官山心理・分析オフィス/長谷川病院/きしろメンタルクリニック）
討 論：木部則雄（こども・思春期メンタルクリニック/白百合女子大学人間総合学部）
発 表 者：畑山由華（東京医科大学病院小児科・思春期科/錦糸町クボタクリニック）
参 加 費：6,000 円
参加人数：41 名（定員 70 名）
企 画 者：福本 修
担当委員：福本 修

（3）関係性精神療法セミナー（第 15 回）「臨床と性愛性」

目 的：今年のテーマは「性愛性」。精神分析において、セクシュアリティとエロティシズムは不思議な位置にある。精神分析の原点ともいえる概念を、関係精神分析はどのように捉えるのだろうか。発表者四人が、それぞれの立場からこのテーマに関する話題提供を行い、参加者とともこの問題への理解を深めた。

対 象：精神分析に興味があり、臨床実践を行っている方。

開催日時：2025 年 7 月 6 日（日）午前 10 時～午後 3 時

開催場所：Zoom によるオンライン開催

発 表 者：長川歩美（A&C 中之島心理オフィス）、富樫公一（甲南大学）、
岡野憲一郎（本郷の森診療所）、吾妻 壮（上智大学）

司 会：岡野憲一郎・富樫公一・吾妻 壮

参 加 費：5,000 円

参加人数：51 名（定員 60 名）

企 画 者：岡野憲一郎

担当委員：岡野憲一郎

（4）力動的心身症臨床セミナー（第 5 回）

目 的：2021 年から「力動的心身臨床セミナー」を開催しています。2025 年には、第 5 回として、心身医療の原点ともいえる Engel, GL(1977)の bio-psycho-social(BPS)モデルについて取り上げました。

開催日時：2025 年 9 月 23 日（火・祝）午後 1 時～4 時

開催場所：小寺記念精神分析研究財団セミナールームおよびオンラインのハイブリッド開催

対 象：心身症臨床に関心があり、臨床経験を有する方。

講 師：鈴木貴之（東京大学大学院総合文化研究科）

岡田暁宜（名古屋大学総合保健体育科学センター）

司 会：加茂聡子（四谷こころのクリニック）

討 論 者：高野 晶（北参道こころの診療所）、加茂聡子（四谷こころのクリニック）

参 加 費：5,000 円

参加人数：27 名（定員：現地 30 名まで）

企 画 者：岡田暁宜

担当委員：岡田暁宜

(5) 学際的ワークショップ「精神分析の知のリンクにむけて」(第10回)

言語、対話、身体—オープンダイアログと精神分析

目的：オープンダイアログと精神分析はいずれも人文学の分野で注目は集めてはいるものの日本では、あまり実践されていないのが実情である。今回のワークショップでは、これら異なる二つの「治療法」が抱える諸問題を検討し、私たちの臨床的思考をさらに深める機会とした。

開催日時：2025年10月13日(月・祝)午後1時～5時

開催場所：小寺記念精神分析研究財団セミナールームとZoomウェビナーによるハイブリッド開催

対象：どなたでも参加できます。

導入：十川幸司「否定の力」

発表者：斎藤環(医療法人八月会 つくばダイアログハウス)、加藤隆弘(北海道大学精神科)

討論者：藤山直樹(個人開業)・十川幸司(個人開業)

司会：藤山直樹・十川幸司

参加費：4,000円

参加人数：62名(定員100名(会場25名まで))

企画者：十川幸司

担当委員：十川幸司

(6) 初回面接入門：力動フォーミュレーションとビデオ録画 (第6回)

目的：ビデオによる面接の研究および訓練のためのディスカッション、そして並行して見立てのための力動フォーミュレーションの訓練を行ってきた先生方を中心に、午前午後にわたって、それら二つを組み合わせて、単発のセミナーを行いました。前年度につづき、事前に「初回面接」についての総論的な講義をオンデマンドで提供しました。臨床歴の長い人にとっては自分の初回面接と見立てを見直す機会に、臨床歴の浅い人にとっては初回やフォーミュレーションの入口を学ぶ機会になったことと思います。

対象：精神分析的な心理療法家を目指す臨床家の方々。

開催日時：2026年3月20日(金・祝)午前10時～午後4時半

開催場所：小寺記念精神分析研究財団セミナールームおよびオンラインのハイブリッド開催

講師：妙木浩之・東 啓悟・小林 陵

司会進行：加茂聡子

参加費：8,000円

参加人数：50名

企画者：妙木浩之

担当委員：妙木浩之

(7) ウィニコットの「治療相談」を読む

「スクイグル技法について考える：反社会的傾向編」(第2回)

目的：スクイグル法は、ウィニコットが最晩年に到達した方法 Therapeutic Consultation 邦訳されている本『子どもの治療相談』を通してしか触れる事ができません。この本をいろいろな視点を通して読み、スクイグルについての理解を深めるためのセミナーです。反社会的な傾向は、診断名ではありませんが、児童のこころの病気の特性、パーソナリティ障害などに関心のある方には、不可欠な概念です。事例のやり取りを詳細に議論していくという形で進めました。

対象：スクイグル技法に関心がある、あるいはウィニコットの考え方に関心がある方。
各自『子どもの治療相談』(岩崎学術出版)をお持ちください。

開催日時：2026年1月12日(月・祝) 午前10時～午後5時

開催場所：小寺記念精神分析研究財団セミナールームおよびオンラインのハイブリッド開催

講師：妙木浩之(東京国際大学)

参加費：7,000円

参加人数：34名(会場定員20名)

企画者：妙木浩之

担当委員：妙木浩之

(8) 子どもの心の発達 一日ワークショップ (新規)

目的：さまざまな場で子どもや若者、保護者と仕事をする際、特に、言語発達の途上にある子ども、そして、言語化しにくい悩みや生きづらさをかかえる人たちのこころを理解しようとするとき、非言語的コミュニケーションに着目することは助けになります。このワークショップは、「見ること」と「書くこと」に焦点を当て、クライアントや相談者などの非言語的コミュニケーションに着目してみることを、そして、セラピストの内側にも眼を向けてみることを目的としました。

対象：臨床心理士、公認心理師、医師、教師、保育士、生活指導員、支援員など、守秘義務を負う仕事に従事している方で、記述できる事例(やりとりしている場面)をお持ちの方。(臨床や仕事の経験の多寡や長さや設定は問いません。1対1の心理相談に携わってなくても構いません。)

講師：脇谷順子・廣内雄一郎

開催日時：8月3日(日) 午前10時～午後4時

開催場所：オンライン開催

参加費：5,000円

参加人数：20名(定員20名程度)

企画者：脇谷順子

担当委員：脇谷順子